

報告事項 1

交通連携基盤による公共交通利用促進（MaaS 展開）及び実証展開について

令和 8 年 1 月 3 0 日提出

東広島市地域公共交通会議
会長 塚井 誠人

1 報告概要

東広島市都市交通計画における「交通 DX の推進」として、「交通連携基盤を活用した公共交通の利用促進施策（MaaS 展開）」の実証実施に向けた検討を進めていることから、事業概要等を報告するものである。

2 交通連携基盤による公共交通利用促進（MaaS 展開）及び実証展開について
別紙「資料 3」のとおり

交通連携基盤による公共交通利用促進 及び実証展開について

2026/1/30



東広島市

ご報告の背景・概要

背景

- 本市の都市交通計画に掲げる「交通DXの推進」として公共交通の利便性向上や地域活性化を目的とした交通連携基盤を活用した公共交通の利用促進施策（MaaS展開）の実証実施に向け検討中
- 実証実施に向けた交通連携基盤構築および事業推進支援を行う委託事業者を選定するため公募型プロポーザルを実施し、JR西日本を採択。
- 今後は、地域や関係機関の皆様とも連携しながら、事業の推進を図っていきたい

東広島市 地域公共交通計画
基本方針と施策メニュー(例)

基本方針	施策メニュー
公共交通の利用促進策の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・パーク&ライド等の駐車場の整備 ・利便性強化(運行情報、決済等)
交通DX・交通GXの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・MaaSプラットフォームの構築 ・運行管理・業務効率化

交通連携基盤の導入により、上記施策を実現

構築・事業推進委託事業者：JR西日本

ご報告内容

- 本市における地域交通課題の現状とそれを踏まえた今後の事業の方向性、取組の概要についてご説明させていただきたい
- あわせて、構成員の皆様にも、今後の検討を進める上で取組に対するご助言やご支援をいただくことがございますため、交通会議の場を通じて共有させていただきたい

東広島市の公共交通を取り巻く現状

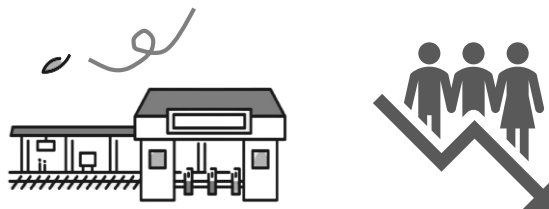
本市では、公共交通を取り巻く環境の変化により、利便性の低下や利用者の減少等、多層的な課題が生じています。関係者の皆さまと認識を共有しつつ、地域一体となり施策を講じていく必要があると考えております。

公共交通の利便性の低下



- 市内バスにおいて複数の決済方法が併存しており、利用者にとって分かりにくい場面が生じている
- 紙の乗車券や確認手続きにより、利用者・事業者・行政双方に事務的な負担が生じている

公共交通の利用者の減少と地域の活力の低下



- 公共交通を使う“最初の一步”を後押しする仕組みが弱く、移動・回遊・滞在につながりにくい
- 学生・高齢者など特定層で移動が限定的となり、都市全体の活動量が十分に引き出せていない

地域一体となった取組の不足



- 交通事業者の経営環境が厳しさを増す中で、行政負担が増加しやすい構造となっている
- 取組の効果や成果が関係者間で共有されにくく、地域全体で役割や負担を分かち合う枠組みが十分に整理されていない

官民で協働しつつ地域一体となって、上記の課題解決に向けて取組を進めていきたい

交通連携基盤の特徴と具体的な施策の想定

マイナンバーカード連携・交通系ICカード登録などの機能を備えた交通連携基盤を導入し、下記のような施策を実施していきたいと考えております。

交通連携基盤とは…

複数の交通事業者や関連サービスが共通で利用できる仕組みを提供し、デジタルチケットや交通系ICカード等を起点として、交通の利用、支払い、データ連携を一体的に支えるための基盤。

【特徴・主な機能】

- **マイナンバーカード連携**
年齢・居住地等の情報に応じたサービスを展開可能
- **交通系ICカード登録**
手持ちの交通系ICカード番号を登録し、利用履歴に応じて、登録した交通系ICカードにポイント(チャージ専用)の付与が可能
- **デジタルチケットの販売**
デジタルチケットの販売が可能、回数券等にも対応
- **利用データの分析**
チケットの購入・利用、ポイント付与などのデータを一元的に把握し、年齢層や居住地ごとの移動傾向を可視化し、施策効果を検証

交通連携基盤を使った施策例

乗車券等の電子化

デジタル共通企画乗車券の販売

- 西条駅広大線の共通企画乗車券の販売

のんびバス1日乗車券のデジタル化

- 現在紙で車内販売している「のんびバス」の1日乗車券をデジタル化

複数モードとの連携

市内交通のサブスクリプション

- デジタルチケットや交通系ICカードをつかって、市内のあらゆる交通機関に定額で乗り放題になるような施策を展開
- 共通の仕組み・金額での利用により、交通をよりシームレスで便利に

利用促進施策

公共交通の利用 + 市内店舗利用で特典付与

- 交通系ICカードやデジタルチケットを起点に、公共交通の利用と市内店舗での支払いを連動させ、特典を付与
- 取組への加盟店舗を拡大し、地域全体で集客・消費を創出

※ 本内容は現在構想中の施策例であり、今後、関係者の皆様との協議等を踏まえて具体化していく予定です。

事業全体の方針

前項で整理した課題を踏まえ、交通の利便性向上と地域の活性化、持続可能性の3点を軸として、来年度にかけては主に交通分野を中心に、再来年度は地域の消費活動まで裾野を広げ、事業を展開していきたいと考えております。

2025年度, 2026年度

公共交通を中心とした実証事業の展開



2027年度

移動×消費・滞在をひとつの流れとして捉えた
施策の実施

上記の取組を検討する上での3つの軸

公共交通の利便性向上

- 交通手段間の連続性や手続の簡素化について、事業を通じて課題と改善点を確認する
- 利用者にとって分かりやすく、使いやすい利用・決済環境を構築する

都市・地域の活動総量の向上

- 公共交通を利用するきっかけとなるようなインセンティブ施策等を検討する
- 移動・回遊・滞在につながる行動の変化を、事業を通じて把握・検証する

官民協働による持続可能な運営体制の構築

- 取組の効果や成果を関係者間で共有できる体制を構築する
- 将来的な役割分担や関わり方について、対話を通じて検討する

交通会議委員及び関係機関の皆様へのお願い（頭出し）

今後の実証や検討を進めていくにあたり、本会議にご参画いただいている皆様のご理解とご協力が不可欠と考えております。前々項で提示した取り組み方針を軸として、今後下記のような点についてご協力をお願いできますと幸いです。

2025年度, 2026年度

公共交通を中心とした実証事業の展開



2027年度

移動×消費・滞在をひとつの流れとして捉えた
施策の実施

交通会議委員・関係機関の皆様にご協力をお願いしたい事項

【交通事業者の皆様】

- ・ デジタル企画乗車券の検討にあたっての協力・参画
- ・ 乗車券利用時の運転手の確認・案内等のオペレーション
- ・ 各交通機関の利用状況・運行実績等に関するデータ提供

【市内店舗・商業者の皆様】

- ・ 会員店舗への周知・広報

【大学・有識者の皆様】

- ・ 専門的な立場からのご助言と学生向け施策に関する実証のご協力

【交通事業者の皆様】

- ・ 各交通機関の利用状況・運行実績等に関するデータ提供

【市内店舗・商業者の皆様】

- ・ 本取組に参画いただける事業者の周知・掘り起こしへの協力
- ・ 公共交通の利用と連動した一体的なキャンペーン施策等への協力・参画

【大学・有識者の皆様】

- ・ 専門的な立場からのご助言と学生向け施策に関する実証のご協力